

2021/12/03

玉村 弘一

スイス家庭滞在体験記

私が最初に海外に行った国はスイスでした。もう 40 年も前のことです。大学の頃英会話クラブに入っていたので、卒業後しばらくしてから、国際交流協会（EIL）に北米行を申し込んだのですが、協会から「申込者が多いので、スイスにしてはどうか」との提案がありました。当時スイスに関する予備知識が全くなく、ドイツ語圏だと言うので躊躇しました。しかしこのタイミングを逃しては行けなくなると思い、スイス家庭滞在を申し込みました。

1970 年の 7 月初め～8 月末の期間、1 グループが約 10 人の 3 グループがスイスの 3 居住区で滞在しました。

私は首都ベルンの郊外の小さな村、ベルプという所で、両親と小学生の子供 3 人の家庭に入りました。

ドイツ語圏でしたが、幸いファッテイ（父親）は英語が上手でしたし、ムエッテイ（母親）も片言の英語が喋れましたので、意思疎通ができました。子供たちともジェスチャーで何とか伝えられました。

スイスの面積は約 4 万 k m²で、九州よりやや小さいそうです。公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンシュ語の 4 つ。スイス人は 2 言語以上を話せるので、互いに理解できるそうです。今では全土で英語が通じるようになりました。40 年前は、英語はほとんど通じませんでした。買い物をするのにも辞書が必要でした。

スイスの牛乳、チョコレートやチーズなど食べ物は美味しいです。私は小さい頃から牛乳が苦手でした。冷たい牛乳を飲むと、必ずお腹が痛くなりました。ところがここで牛乳を飲んでも腹が痛くならなかったのです。不思議でした。チーズに関しても同じようなことがありました。私は北陸の田舎育ちだったので、以前にチーズを食べたことがありませんでした。スイスに着いた最初の頃は、ナチュラルチーズの独特の匂いが嫌で食べることはできませんでした。チーズ工場の見学に行ったときは、鼻を押さえながら逃げるように工場内を回りました。

ところが、キャンプ中にラックレットというチーズを薪で溶かしてじゃが芋に付けて食べる料理に出会いました。不思議なことに、この時には何の抵抗もなくチーズが食べれました。私はこの時は溶けたチーズだから食べれたと思って

ました。しかし滞在しているうちに次第に生のチーズでも食べれるようになり
ました。体が順応するんですね。

ある日、日本文化を紹介するため、一緒に来た仲間（女性）を滞在家庭に招い
て、舞踊、お花とお抹茶を披露してもらいました。女性が帰った後、ファッテ
イがお抹茶を除けば全て素晴らしかったと言うのを聞き、ファッテイでも苦手
なものがあるのを知って私はおかしく思いました。

家庭滞在で特記すべきことが2つありました。1つは男性が積極的に家事をする
ことです。料理や皿洗い、庭仕事など。私は「男子厨房に入るべからず」とい
う風潮の時代に育ったので、料理をしたことがありませんでした。ところがフ
ァッテイが台所でムエッテイと一緒に料理を作るのをみてびっくりしました。
ファッテイは「自分は今休暇中である。しかし、ムエッテイも休暇を取る必要
がある」と言いました。

男女平等ということですね。

2つ目は昼食後にすぐにプールに行くのが良いか、または先に昼寝をすべきかを
子供たち3人が話し合いました。話し合いの間、両親は自分たちの都合を押し
付けず、子供たちの結論に従ったことでした。民主主義の根幹を知った気がし
ました。

若い時に、海外へ行くことは大変素晴らしいことだと思います。機会があれば
ぜひ家庭に入って体験してください。

スイスに行ったらなすべきことの一つに、山歩きがあります。美しい景色を見
ながらの山歩きは本当に素晴らしいです。ハイキングできる服装と靴を準備し
て行くのが良いと思います。